

## エビチャコモリグモ *Arctosa ebicha* Yaginuma

### 【選定理由】

県内での主な生息環境は河川敷・湿地・草原等である。どの生息地においても個体数は少ない。近年、相次いで生息地が開発によって消滅し、現在では極めて限られた地域で生息している。

### 【形態】

体長雌 11～15mm、雄 10～12mm。雌雄とも背甲は濃茶褐色。腹部背面は濃茶褐色で心斑は褐色。全身に黒毛を生じる。4脚とも各節は濃赤褐色で、第1跗節には長毛が2本あり、脛節下面には短い刺が3対ある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

名古屋市、豊明市、岡崎市、刈谷市、豊田市、安城市、西尾市、碧南市、知立市に分布する。

#### 【国内の分布】

本州、四国、九州に分布する(新海ほか, 2018)。

#### 【世界の分布】

日本、韓国、中国に分布する。

### 【生息地の環境／生態的特性】

主に河川敷や草地等を徘徊するが、草の根元や土の窪みなどに潜んでいることもある。成体は一年中確認される。多くのコモリグモ類の雌は、卵のうを糸器につけて徘徊するが、本種は卵のうを糸器につけはするものの、あまり徘徊はせずに地中に浅い穴を掘って潜んでいることが多い。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

2013～18年の調査では、名古屋市西区(庄内河川敷)・同市名東区(牧野ヶ池緑地)、岡崎市針崎町(草地)・同市阿知和町(放置田)、豊田市上原町(籠川河川敷)、西尾市上町(矢作川西尾緑地)の6ヶ所で確認しているが、岡崎市では2ヶ所とも土地開発の予定地になっている。豊田市ではバイパス工事で生息地が消滅する恐れがある。生息地の多くは平野部の河川敷や草地で、河川工事や土地開発等の影響を受け易く、個体数が激減すると予測される。

### 【保全上の留意点】

河川工事や土地開発等による生息域の環境破壊で減少が懸念される。また、農薬や除草剤等の散布にも注意する必要がある。

### 【特記事項】

大型のコモリグモで、同所に生息している種としてはアライトコモリグモ (*Trochosa ruricola*) が挙げられる。本種は全体に濃茶褐色に対し、アライトコモリグモは背甲の中央に褐色の縦条があり、腹部背面の心斑が淡褐色でより鮮明である。

### 【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

### 【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑, pp.27,171. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, p.158. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2017. 日本のクモ, p.123. 文一総合出版, 東京.

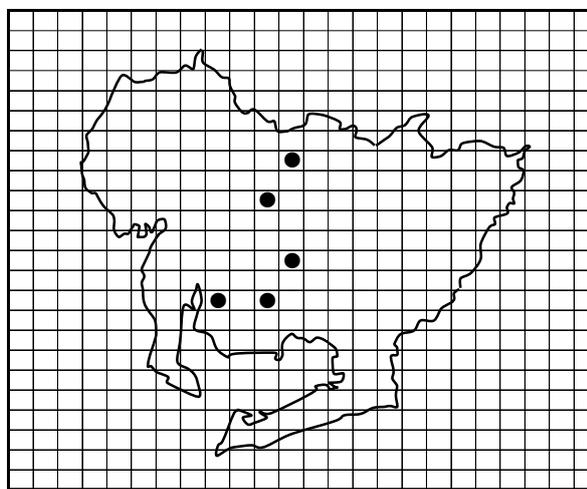
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.222,248. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.326,557. 東海大学出版会部, 神奈川.



♀. 岡崎市針崎町, 2014年10月10日, 緒方清人 撮影

県内分布図



(緒方清人)